



白癬菌の検出には、従来より水酸化カリウム液が用いられていますが、鏡検までに時間を要し、透徹度が悪く、菌要素の検出が必ずしも容易ではないとされています。一方ZaiasとTaplin(1966年)によって考案されたジメチルスルホキシド(DMSO)添加水酸化カリウム液による方法は、透徹がよく、短時間で菌の検出ができると報告されています。

ズームは、この報告に基づいて開発された白癬菌検出用試薬で、白癬患者について従来の水酸化カリウム液との比較を行い、すぐれた結果を得ています。

〔特 長〕

- 1.透徹度がすぐれています。
ズームは、DMSOの作用により、従来の水酸化カリウム液に比して、角質の透徹度のよさが有意にすぐれており、菌要素の検出が容易です。
- 2.短時間で鏡検できます。
ズームは、透徹に要する時間が短いので、薄い角質物(鱗屑片や小水疱蓋)なら1~2分、比較的厚い角質物(角質増殖型病巣の表皮など)で5分内外、また厚さ1mmにおよぶもの(爪など)でも10~20分で菌要素の検出ができます。
- 3.操作が簡便です。
ズームは、透徹度がよく、短時間で鏡検できるので、加温したり、カバーガラスを圧して材料を薄い膜にする必要がありません。(加温すれば、さらに短時間で鏡検できます)
- 4.安定性にすぐれています。
従来の水酸化カリウム液は1ヵ月位で白濁するのでそのたびに新しく調製しなければなりませんが、ズームは安定性にすぐれているので、長期保存に耐えます。

〔使 用 法〕

- 1.適当な器具を用いて、病巣部より鱗屑、丘疹表皮等の検査材料を採取します。
- 2.採取した検査材料をスライドグラスに取り、カバーガラスを被せ、その一端を指で軽く押さえ、反対側から本剤を滴下します。
- 3.検査材料が透徹するのを待って、顕微鏡で観察します。

〔使用上の注意〕

適用上の注意

- 強アルカリ性であるので、誤って目に入らないように十分注意してください。
- 強アルカリ性であるので、誤って口に入れないように十分注意してください。
- 手についたときには流水で手をよく洗ってください。
- 衣服等についたときには直ちに酸で中和したのち、水でよく洗ってください。

〔保管及び取扱い上の注意〕

- 直射日光を避け、なるべく涼しい所にキャップをよくしめて保管してください。
- 外箱に記載の使用期限内に使用してください。
- プレパレート作成後長時間放置すると水酸化カリウムの結晶析出により鏡検不可となることがあります。

※本試薬は、医薬用外劇物(水酸化カリウム含有試薬)に該当しますので、保管及び取扱いには十分注意してください。

★製品安全データシートは裏面をご覧ください。

製品安全データシート

作成日 2010年 4月 1日
最新改訂日 2018年12月 3日

化学物質及び会社情報

製品
化学物質等の名称 **ズーム**
供給者情報
製造者 **ニプロ株式会社**
大阪府大阪市北区本庄西3丁目9番3号
久光製薬株式会社 学術部 お客様相談室
製品情報窓口 **〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号**
フリーダイヤル 0120-381332 FAX.(03)5293-1723
受付時間/9:00-17:50 (土日・祝日・会社休日を除く)

危険有毒性の要約^{1)~4)}

GHS分類
物理化学的危険性
引火性液体 区分4
健康有害性
急性毒性(経口) 区分4
皮膚腐食性及び刺激性 区分1B
眼に対する重篤な損傷性及び眼刺激性 区分1
生殖毒性 区分1B
特定標的臓器(単回ばく露) 呼吸器系 区分1
中枢神経系 区分2
視覚器 区分2
全身毒性 区分2
(反復ばく露) 血液 区分2
肝臓 区分2
皮膚 区分2
中枢神経系 区分2
視覚器 区分2

(注) 記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

ラベル要素
絵表示またはシンボル:



注意喚起語: 危険

組成、成分情報

単一物質: 混合物の区別: 混合物(水酸化カリウム含有試薬)
含有する化学物質の名称・含有率
水酸化カリウム(Potassium hydroxide) 15%
シメチルスルホキシド 40%
溶剤

応急措置^{1)~4)}

飲み込んだ場合
直ちに多量の水で口を洗浄後、コップ1~2杯の水または牛乳を飲ませる。無理に吐かせてはいけぬ。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。速やかに医師の診断を受ける。
眼に入った場合
直ちに多量の水で15分以上洗い流す(コンタクトレンズを着用していた容易に外せる場合は外すこと)。速やかに眼科医の診断を受ける。
皮膚に付着した場合
直ちに多量の水で石けんを用いて洗う。汚染された衣服等は直ちに脱ぎ、再使用前に洗濯しておく。炎症がひどい場合や長時間接触していた場合、刺激等の異常が続く場合は、医師の診断を受ける。
吸入した場合
新鮮な空気の場所に移し、安静保温に努め、直ちに医師の診断を受ける。

火災時の措置^{1)~3)}

消火剤: 粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、水
火災時の特定危険有害性: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特定の消火方法: 火元の燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。
消火を行う者の保護: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

漏出時の措置^{1)~3)}

公共水域等に流出しないように注意し、酢酸等の希酸で注意深く中和し、大量の水で洗い流す。
作業時は、空気の流通を良くし、適切な保護具を着用し、眼や皮膚との接触を避ける。

取扱い及び保管上の注意^{1)~3)}

取扱い: 換気の良い場所で取扱う。眼、皮膚、衣服等への接触を避けるため保護具を着用し、取扱い後は手をよく洗う。火気厳禁。
保管: 直射日光を避け、なるべく涼しい所にキャップをよくしめて保管する。

※本品の取扱い及び保管は、毒物及び劇物取締法の規定に基づく。

暴露防止及び保護措置^{1)~3)}

設備対策: 取扱い場所の換気環境を整える。
取扱い場所の近くに、手洗い、洗眼施設等を設け、その位置を明らかにしておく。
保護手袋、保護衣(長袖)、保護メガネ等不浸透性の適切な保護具を使用する。

物理的及び化学的性質⁵⁾

外観: 無色~淡黄色の透明な液体
pH: 強アルカリ性
引火点: 76℃
燃焼または爆発温度: データなし
比重: 1.164 (20℃)

安定性及び反応性^{1)~3), 5)}

安定性: 常温では安定。
反応性: 強アルカリ性の液体で、アルミニウム等を腐食し、可燃性の水素ガスを発生する。酸と反応する。

有害性情報^{1)~4)}

刺激性・腐食性: ミストを吸入すると、鼻、咽喉、気管支、肺を刺激する。皮膚に対して腐食性がある。眼に入ると角膜や結膜を侵し、失明する危険性がある。
変異原性: 本品の変異原性については試験されていないが、本品には変異原性が認められた物質が含有されている。
急性毒性: ラットLD₅₀ 273mg/kg(経口)¹⁾
※水酸化カリウムとして、(KOH)¹⁾
慢性毒性・長期毒性: 長期または反復の皮膚接触により、皮膚炎を起こすことがある。

環境影響情報

水生環境有害性(急性): 分類できない
水生環境有害性(長期間): 分類できない
オゾン層への有害性: 分類できない
※強アルカリ性のため水生生物に有害な影響を与える可能性がある。

廃棄上の注意^{1)~3)}

残余廃棄物
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装
容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

毒物または劇物の別

劇物(医薬用外劇物): 水酸化カリウムを含有する試薬

輸送上の注意^{1)~3)}

本品の輸送は毒物及び劇物取締法に従って行う。
直射日光を避け、なるべく涼しいところに積み込み、荷崩れの防止を行う。
容器の破損等を防ぐため、乱暴な取扱いを行わない。
食品や飼料と一緒に輸送しない。

適用法令

消防法: 危険物第4類 第3石油類(水溶性) 危険等級Ⅲ(混合物の引火点結果による)
労働安全衛生法: 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
毒物及び劇物取締法: 第2条別表第2
化学物質排出把握管理促進法: SDS及びラベル作成

その他情報

引用文献 1) 原料の製品安全データシート
2) 国際化学物質安全性カード(ICSC)(International Chemical Safety Cards)
3) 安全衛生情報センター 安全衛生情報 MSDS
4) 第三版 急性中毒処置の手引き(財)日本中毒情報センター編集 じほう社
5) 久光製薬社内資料

製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考情報として、当該化学製品を取扱う事業者へ提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。
この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該化学製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該化学製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従いまして、当該化学製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の実状に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この製品安全データシートを活用されるようお願いいたします。